

特集3 スピード、コスト、省電力、スマホ対応……

ビジネスプリンター購入ガイド



書類の印刷に日々活用し、仕事に不可欠な道具であるプリンター。ビジネス向けの製品も、ゆっくりとだが着実にモデルチェンジを重ね、性能の向上や機能の追加、そしてコスト低減を実現している。製品選びの勘所と代表製品を紹介しよう。(岡村 秀昭=フリーランスライター)

選択肢が広がったビジネスプリンター

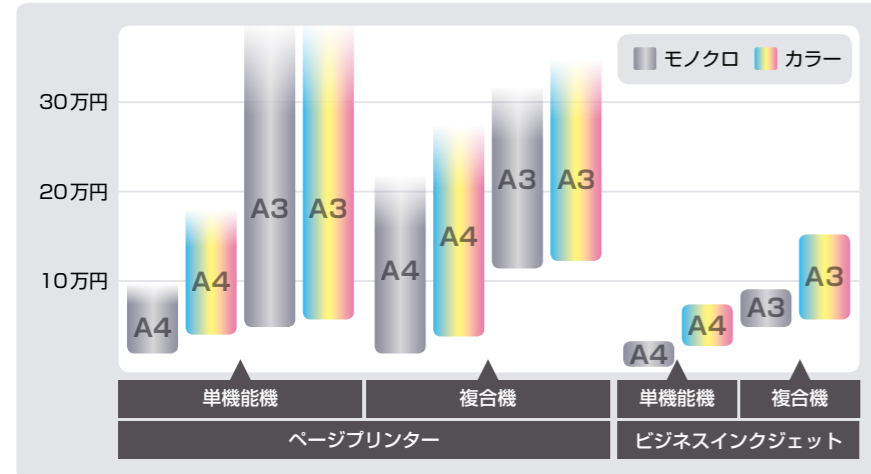


図1 主なビジネス向けプリンターのタイプと価格帯。ページプリンターは、速度や給紙容量、耐久性などによって価格に幅がある。低コストなインクジェットプリンターにもビジネス向けの製品が増えた。このほか、ポスターなどの印刷に便利なA3ノビ対応のカラーインクジェット機もある

ビジネス向けのインクジェットプリンターも続々



図2 省電力で高速なビジネス仕様のインクジェットプリンターを、適材適所で導入する例が増えている。セイコーエプソンはコンパクト機からA3対応の複合機までラインアップを強化。A3複合機で実績豊富なブラザー工業は、3年間無償保証付きの上位モデルを追加している。独自のジェルジェット方式を採用するリコーは2012年1月、従来機に比べ大幅に小型化した新シリーズを投入した

ネットワークが普及してオンラインで完結する業務が増えたとはいえ、オフィスではまだまだ「紙」が主役。書類や資料を印刷するためのプリンター選びは重要だ。プリンターの技術は既に成熟していて、ここ数年の性能向上は緩やかだが、それでも印刷速度や消費電力、使い勝手をはじめ進化は続いている。数年前の機種から買い替えれば、満足度はかなりアップするだろう。印刷可能な用紙も広がり、外注していた印刷物を内製化してコストを削減するといった活用もやすくなっている。

コンパクトなA4機が増加

まず、最新の製品トレンドを見ておこう。職場で使うビジネスプリンターといえば、高速でA3用紙にも対応するページプリンター/複合機が主流だが、オフィスで使う書類のA4化が進んだこともあり、コンパクトなA4対応プリンターが増えている。価格も手ごろで、1分当たり20枚前後印刷できるカラー機が数万円から。より低価格なモノクロ機も、

運用コストに厳しいユーザーを中心に根強いニーズがあり、新モデルが数多く登場している(図1)。

目立った動きとしては、2011年にセイコーエプソンがA4対応機の製品ラインアップを強化。大企業向けを得意とする富士ゼロックスも、新たに中小規模市場に向けて小型のA4カラー機を投入した。日本ヒューレット・パカード(日本HP)も、A4カラーのエントリー機を2012年2月に投入する。

一方、東日本大震災以降に高まった節電の必要性から、ビジネスインクジェットプリンターの注目度も上がっている。インクジェット機は、消費電力がページプリンターの約10分の1と低い。同分野に力を入れるエプソンによると、急激に出荷が伸びたわけではないが認知度は確実に上がり、選択肢の一つとして検討されるようになったという(図2)。

このように製品のラインアップが増えると、製品を購入する際に目移りしてしまう。そこで、製品選びのポイントを解説しよう(図3)。

速度にコスト、耐久性

印刷性能としては、まず速度を考えたい。カタログなどに表記される「ppm」(ページ/分)を参考にすが、これは2枚目以降の定常的な出力の速さを示すことに気を付けよう(図4)。大量部数を連続して印刷する用途には「ppm」が大きい製品に軍配が上がるが、1部ずつなど小部数の印刷を繰り返す場合は、「ファーストプリント」や「ウォームアップ」の時間が短い方が快適だ。特にウォームアップが遅いと、節電(スリー

製品選択のポイントはさまざま

印刷性能	コスト	用紙対応	使い勝手
●速度 ●給紙容量 ●耐久性	●導入コスト ●ランニングコスト ●管理コスト	●サイズ ●特殊紙 ●専用フォーム	●ドライバー ●消耗品の交換 ●設置スペース
省エネ性能	サポート	スマートフォン/タブレット対応	セキュリティ機能
●低消費電力 ●TEC値 ●節電機能	●故障時対応 ●保証期間 ●消耗品対応	●印刷用アプリ ●無線LAN対応	●ICカード認証 ●暗証番号要求 ●データ暗号化

図3 製品選びの主なポイントを挙げた。印刷速度やコスト、対応用紙サイズなどに加え、使い勝手や省エネ性能などもチェックするとよい

印刷速度の考え方とコストとの関係

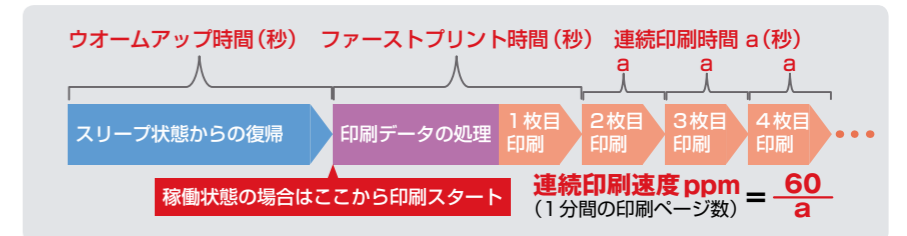


図4 カタログに表記されることが多い「ppm」は、連続印刷が始まってからの1分当たりの印刷可能枚数。起動時のウォームアップや、最初の1枚目にかかるファーストプリントの時間も確認しよう

	A3カラープリンター			A4カラープリンター		
カラー速度	35ppm	30ppm	8ppm	30ppm	12ppm	10ppm
カラーコスト	11.5円	11.9円	15.5円	12.4円	18.6円	18.6円
モノクロコスト	2.8円	2.8円	3.0円	3.0円	4.3円	4.3円

図5 ページプリンターの印刷速度とランニングコストの関係。価格の高い高速なプリンターほど、1枚当たりのランニングコストは安めの傾向がある(セイコーエプソンの例)。印刷枚数が多いのに低価格モデルを選ぶと、トータルでは割高になることもある

プ)状態からの復帰に時間がかかり、作業効率が悪くなる。

コストに関しては、まず1枚当たりの印刷コストをチェックしよう。安価な低速モデルは高価な高速モデルより1枚当たりのコストが割高の傾向がある(図5)。

また、耐久性も重要。最近の低価格機には、合計3万枚程度の印刷にしか耐えられず、しかもドラムなどが交換できない使い切りの製品がある。このような製品は、5年間使うとして月に数千枚程度の用途まで。それより印刷枚数が多いようなら、

ドラムなどの消耗部品を交換しながら10万~数十万枚の印刷に耐える中上位機を選ぶ。

伝票印刷やPOP印刷など特殊用途に使うなら、用紙対応力を確認。各社とも用紙メーカーや印刷会社などと協力して強化に努めている。リコーは、目的の特殊用紙が使えるかどうかを事前に検証してくれるセンターを立ち上げている。そのほか、サポート対応も要チェック。OKIデータは「COREFIDO」シリーズに、5年間無償保証を付けている。

ランニングコストを抑える仕組み